

That's きつとす 令和元年 5月

## 智観寺中山家墓地にある「オリ」

### ●智観寺中山家墓地

智観寺は、徳川御三家のひとつ、水戸徳川家の付家老であった中山家の菩提寺です。ここには、水戸で亡くなった2代信正、4代信行を除く初代信吉から13代信宝までの当主とその室、子ども及び分家の墓約40基があり、その期間は250年にも及びます。

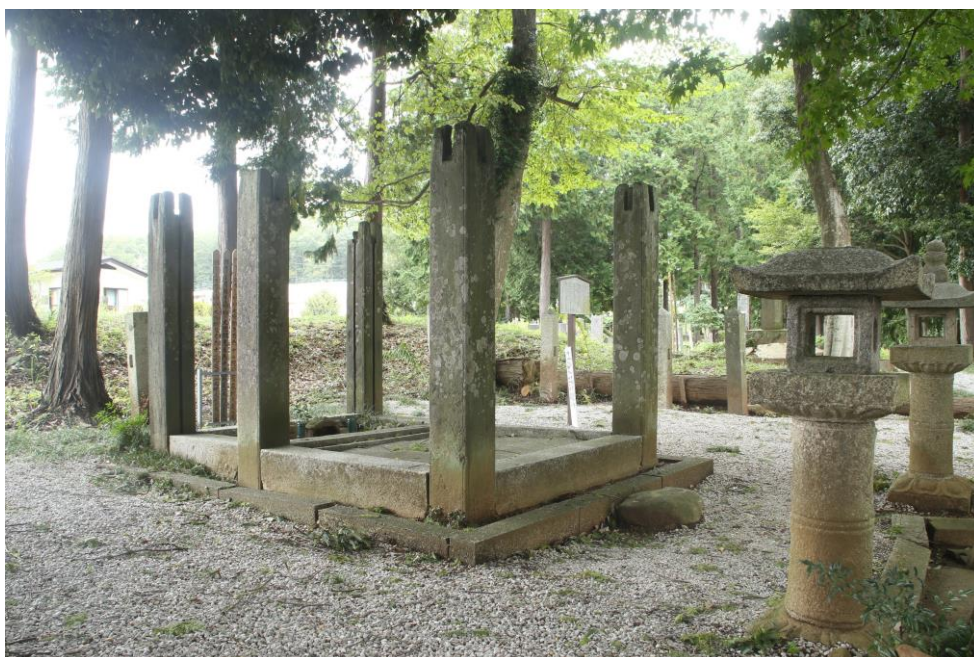
その中にまるでオリのような、ひときわ異様な形をしているものがあります。これについて大胆に推測してみましよう。

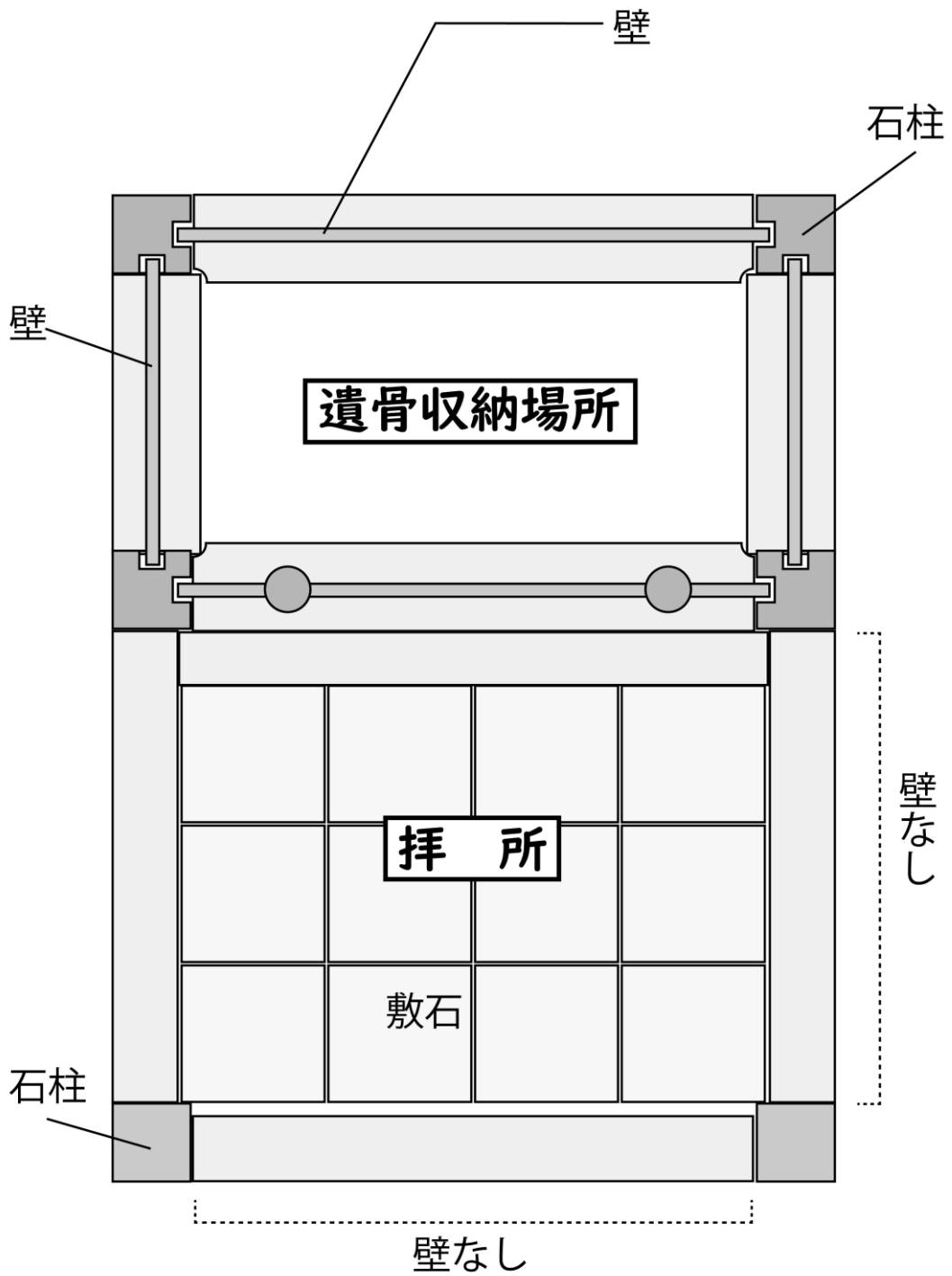
### ●風軒跡(中山信正御霊屋)

これは、中山家2代信正の御霊屋です。御霊屋とは霊をまつる建物で、有名な日光東照宮は徳川家康の御霊屋ということになります。文政3(1820)年から4年にかけて現地調査しまとめられた「新編武蔵風土記稿」には「風軒の扁額を懸く、…石柱瓦葺なり、中山二世丹治信正が遺骨を収蔵せし所なり…」と記されています。信正の墓は水戸にあります。

この建物には瓦屋根が葺かれ、6本の石柱の側面に刻まれた細い溝の有無から、下図のように上側(西側)1間分には壁があり、切石が敷かれた下側(東側)1間分には壁がなかったと考えられます(図)。つまり西側に信正の骨が収められ、東側の切石が敷かれ壁のない部分は拝所であったのではないのでしょうか。

信正の御霊屋は高さ70cmほどの石柱によって結界され、さらにその外側には東に開いた「コ」字状の壇が見られます。このことから、風軒は、東側に御影堂を伴った初代信吉墓に次ぐ規模と施設をもった遺構といえそうです。(尾崎)





(上から見た図)